

フォトコンテスト審査会

と き 令和元年10月3日(木)

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告: 副会長 今村 孝子]

対外広報事業として、「いのち きずな やさしさ」をテーマにしたフォトコンテストを今年度も開催した。10回目となる今回も山口県内にとどまらず他県からの応募も含め55名の方から、計139作品のご応募をいただいた。

今回も審査委員長として、平成27年に写真集『結界』で第34回土門拳賞を受賞された萩市在住の写真家の下瀬信雄氏を迎え、審査員として河村康明 会長、林 弘人 副会長、そして広報委員の渡邊恵幸 先生、岸本千種 先生、石田 健 先生、吉川功一 先生、岡山智亮 先生をお願いした。

審査会当日、会議室に並べられたすべての作品を見てみると、愛情の込められた、心を癒してくれる写真ばかりであった。この中から、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞を各1点及び佳作4点の計8点の選考を開始した。

審査方法は例年同様、まず、各審査員に付箋を8枚ずつ配付し、自分が気に入った作品に貼るというものである。各審査員はそれぞれの感性を活かして、真剣な面持ちで次々に付箋を貼り付けていった。第一次審査では、139作品の中から約30作品が選ばれたが、力作揃いで選ぶ作業が年々困難になっており、皆さん、悩みに悩んで選ばれていた姿が印象的だった。選ばれた作品を集め、下瀬審査員長の進行のもと、審査が進められた。被写体の表情、構図、光の使い方だけでなく、それらを通して伝わる撮影者の



「伝えたいメッセージ」がわかる、あるいは「発見」や「感動」がはっきり出ている作品が審査員の心を捉えたようである。審査開始から約40分後、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞の各1点及び佳作4点の各受賞作品が決定した。

なお、受賞作品については11月10日(日)に開催した県民公開講座にて表彰式を行い、下瀬審査委員長に講評も行っていただき、応募いただいたすべての作品展示も同時に開催した。

ご応募いただいた皆さま、審査員の皆さまに深く感謝いたします。

